

## 令和元年度 第2回市川市自立支援協議会 会議録（概要）

- 1 開催日時：令和元年9月4日（水）13時30分～15時30分
- 2 場 所：市川市急病診療・ふれあいセンター2階 第2集会室
- 3 出席者：朝比奈委員、飯作委員、磯部委員、植野委員、内野委員、川端委員、木下委員、近藤委員、高木委員、武田委員、谷藤委員、永井委員、長坂委員、西口委員、西村委員、廣田委員、保戸塚委員、堀江委員、松尾委員、圓山委員、水野委員、森田委員、山崎委員  
事務局：市川市 障がい者支援課（高橋課長、野口主幹、沓澤副主幹、夏見主査、石田主査）  
市川市 障がい者施設課（佐々木課長、森田主幹）  
市川市 発達支援課（守屋主幹）  
傍聴：4名
- 4 議 事：（1）開会  
（2）連絡・報告事項  
（3）各専門部会・障害者団体連絡会の状況について  
（4）基幹相談支援センター運営協議会の報告について  
（5）地域生活支援拠点等について  
（6）人材確保に向けた自立支援協議会の取組について  
（7）閉会
- 5 提出資料：（1）市川市内障がい者福祉施設の運営主体を対象としたアンケート（資料1-1）  
（2）市川市レスパイトサービス事業補助金に関する説明会の開催について（資料1-2）  
（3）第4次いちかわハートフルプラン策定に係るスケジュール（案）（資料1-3）  
（4）相談支援部会資料（資料2-1）  
（5）生活支援部会資料（資料2-2）  
（6）就労支援部会資料（資料2-3）  
（7）こども部会資料（資料2-4）  
（8）障害者団体連絡会資料（資料2-5）  
（9）市川市基幹相談支援センター平成30年度業務報告資料（資料3-1）  
（10）令和元年度第1回基幹相談支援センター運営協議会概要（資料3-2）  
（11）市川市における地域生活支援拠点ネットワークのイメージ図（整備当初のもの）（資料4-1）  
（12）緊急時の施設受入イメージ（案）（資料4-2）  
（13）さとみ133号（1～8ページ）（資料番号なし）

- (14) 講演会ちらし「障害のある人と家族にとっての8050問題を考える」(資料番号なし)
- (15) 市川市市民講座ちらし「ASD(アスペルガー)的あなたの特徴を知ろう～いよいよどうにかしたいと思っているあなたへ～」(資料番号なし)
- (16) 講演会ちらし「市川市の相談支援を考える」(資料番号なし)
- (17) 講演会ちらし「利用者がメリットを実感できる後見制度へ～市川に権利擁護支援のネットワークを構築していくために～」(資料番号なし)

【開会 13時30分】

【議事(1)開会】

○山崎会長より開会宣言。

【議事(2)連絡・報告事項】

山崎会長 : まず、事務局から説明をお願いします。

障がい者施設課 : 資料1-1について。今回、アンケート調査を実施する予定。近年は必ずと言っていいほど、福祉業界の人材不足のことが話題に上るが、各事業所が抱える様々な困難事例があると思う。それについて今回改めて調査するものである。それにより、漠然とした対策ではなく、具体的に市としてどういう取組みができるのかの材料としたいと考えている。対象は、障害者福祉施設で、成人の通所施設を設置している運営主体32箇所。去る8月23日に、特別支援学校卒業生の進路検討会を開催したが、その場でアンケートの配布を行い、欠席者にも後日送付した。回収は9月6日を目途にと考えており、次回の自立支援協議会で結果を報告したいと思っている。

障がい者支援課 : 資料1-2について。市川市レスパイトサービス事業補助金の制度の見直しについては、これまでもご説明していたが、今月の9月20日に、市川市急病診療・ふれあいセンター3階にて、制度改正についての説明会を開催する予定。対象者把握のため、参加の場合は事前に申込みをお願いしている。

資料1-3の第4次いちかわハートフルプラン策定について。現行の計画期間が令和2年度で終了となる。令和3年度以降の計画の策定に向けて、令和2年度中のスケジュール案を本日お配りした。計画案の内容については、社会福祉審議会及び障害者福祉専門分科会にて審議を行っていく。自立支援協議会としては、来年の7月までに、各部会にて意見を取りまとめていただき、文書にて、障害者福祉専門分科会に報告できればと思っている。また、現行の計画策定時との変更点を挙げると、前回は、3千人規模のアンケート調査を実施したが、今回は行わない予定で

- ある。併せて、前回は、計画策定のプロジェクトチームを設置したが、今回は設置しない予定である。
- 障がい者支援課（野口主幹）： 幼児教育無償化に係る受給者証の発行についてご説明する。来月10月1日からこの無償化が始まるが、これに関し、保護者等からの手続は特に必要ない。今週中に対象者と事業者宛てに周知文書を発送する予定である。新しい受給者証が今後対象者の元に届く予定で、窓口は障がい者支援課と発達支援課となる。
- 山崎会長： 以上について、何か質問は。
- 谷藤委員： 資料1-1について。アンケートを実施することは嬉しいことだと思うが、対象には精神障害者向け事業所も含まれると理解してよいか。また、質問の中に、「民営化又は指定管理として公募した場合」、「市が用地を確保した場合」というようなことが書かれているが、民営化しても市として必要なことはサポートしていくと理解してよいか。
- また、資料1-3について。計画の決定は、社会福祉審議会の答申をもって、市が最終的に行うという理解でよいか。
- 障がい者施設課（佐々木課長）： アンケートの対象には、精神障害者向け事業所も含まれている。民営化については、これまでの市の様々な施設の民営化でも、民営化先法人と市との間で、運営事業に関する契約を締結しており、公設のときからサービスの質の低下を招かないようにしている。今後もこの考えには変わりはないが、人材不足等の様々な問題があるので、様々な可能性を視野に入れながら検討していくためのアンケートであると捉えていただければと思う。
- 障がい者支援課（石田主査）： 計画の最終決定については、社会福祉審議会及び障害者福祉専門分科会が審議を行い、市長に答申し、市がそれをもって最終的に決定するものである。
- 谷藤委員： 保育園も民営化の方針だが、民営化の方針が人材確保の困難さを招いている部分もあると思う。その点をしっかり踏まえた上で、サービスの質が低下しないように行っていただきたい。
- 保戸塚委員： 資料1-1について。地域コミュニティゾーンのことを前回ご報告いただいて、事業者向けの意向調査を実施していただいた。私たちも回答させていただいた。児童発達支援センターについては、障がいがあるお子さんが利用するし、保育の質も高めていく必要があるので、情報提供や意見聴取も、この協議会のような場で行っていただきたい。地域の賑わいという意味では、子どもだけではなく、様々な世代が参加できるようにと意見を出させていただいたが、高齢者なども対象にした計画を立てられるのであれば、この協議会のような場で当事者の意見を聞きながら計画策定をしていただけるとありがたい。また、その調査の結果について

て、市ウェブサイトにも、「どういう意見が多かったか」が載っていたが、「どういう意見があったのか」を載せた方が良くはないか。いちかわハートフルプランに関しては、市川市子ども・子育て支援事業計画の計画期間が、今年度が最後となっており、子ども・子育て会議の方で、次年度以降の計画策定を進めている。いちかわハートフルプランは、市川市地域福祉計画等と整合を図りながら策定すると思うが、市川市子ども・子育て支援事業計画も踏まえたものにする必要があると思う。計画期間にずれがあるが、両者で連携しながら進めていってほしいと思っている。

- 発達支援課（守屋主幹）：地域コミュニティゾーンの件については、来月10月開催のこども部会で、情報を共有していきたいと考えている。
- 障がい者支援課（石田主査）：ハートフルプランについては、現行の第3次いちかわハートフルプランにおいて、本市の地域福祉計画や、高齢者福祉計画・介護保険事業計画と計画期間を揃えることとした。次期いちかわハートフルプランは、市川市子ども・子育て支援事業計画も踏まえて策定していく予定である。

#### 【議事（3）各専門部会・障害者団体連絡会の状況について】

- 山崎会長：各専門部会での取組みについて、まずは相談支援部会から報告をお願いします。
- 内野委員：相談支援部会からの報告をします。（資料2-1に基づき報告）
- 山崎会長：次に、生活支援部会から報告をお願いします。
- 松尾委員：生活支援部会の報告をします。（資料2-2に基づき報告）
- 山崎会長：次に、就労支援部会から報告をお願いします。
- 西村委員：就労支援部会の報告をします。（資料2-3に基づき報告）
- 山崎会長：次に、こども部会から報告をお願いします。
- 保戸塚委員：こども部会の報告をします。（資料2-4に基づき報告）
- 山崎会長：次に、障害者団体連絡会から報告をお願いします。
- 木下委員：障害者団体連絡会の報告をします。（資料2-5に基づき報告）
- 山崎会長：では、ここまでの報告を踏まえて質疑、意見交換をしたいと思います。
- 谷藤委員：資料2-1について。1ページ、「計画相談作成状況」について、詳しくご説明してほしい。また、2ページ、「ぶっちゃけ会」について、詳しくご説明してほしい。また、5ページ、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業からの報告」について、アンケート調査の「※別紙」とは、どこにあるのか。
- 内野委員：1ページ、「計画相談作成状況」について。他市の計画相談の状況（モニタリング数、セルフプラン数等）を、障がい者支援課で調べてもらっているところである。そのデータを分析した結論は出ていないが、他市のデータを見ながら検討を進めているところである。

- 2ページ、「ぶっちゃけ会」について。これは、I s - n e tが設置される前から行っているものだが、普段なかなか言えない本音などを、その場で共有するなどし、質の向上を目指しているものである。
- 障がい者支援課（石田主査）：資料中に書いてある「※別紙」は、誤植であり、今回アンケート結果は添付していない。次回の本会議で報告がある予定。
- 朝比奈委員：資料2-2、「お泊まりどれみ」について。参加者の中で、医療的ケアを必要とするお子さんは、だいたい何人いたか。
- 永井委員：資料2-5、総合防災訓練について。今後、障害者団体連絡会として、どのようにこの振返りをし、市に投げかけ等をしていくのか。また、市の防災担当課との打合せは定期的に行っているのか。
- 木下委員：「お泊まりどれみ」については、応募者10名程度のうち4名程度が医療的ケアを必要とするお子さんだったと記憶している。
- 植野委員：総合防災訓練については、障害者団体連絡会としても、アンケートを取っているのだから、それを元に市に投げかけ等をしていくつもりである。また、市の防災担当課との打合せは、定期的に行っている。
- 高木委員：資料2-5、障害者団体補助金について。制度の変更があるが、事前の相談、説明をもう少し行うべきだったのではないかと。これは意見として申し上げる。
- 山崎会長：先ほどの谷藤委員の意見にも関連するが、各部会からの報告が、イベント活動報告が中心になってしまっている。各部会でどういった問題意識や課題を持っているのかなどが本会議に上がってくる方が望ましいのではないかと。また、相談支援の体制について、課題意識が本会議でも共有されていない点があったのではないかと。これらの課題の明確化が必要ではないかと。毎回、データは資料として添付して、更新していくべきではないかと。例えば、障害支援区分の認定を受けている者の数など、基本的なデータをグラフ化して示すなどすることで、課題の共有ができるのではないかと。部会からの報告資料の作り方をもう少し工夫した方がよいのではないかと。
- 山崎会長：部会からの報告資料について、ある程度のフォーマットを整えた方がいいのではないかと感じた。今後検討していきたいと思う。

**【議事（4）基幹相談支援センター運営協議会の報告について】**

- 山崎会長：報告をお願いします。
- 長坂委員：資料3-1に基づき報告。
- 朝比奈委員：資料3-2に基づき報告。
- 山崎会長：質問はあるか。

- 植野委員 : 意思疎通支援の点について。自身で意思を表現することが困難な人がいることが課題と思っている。相談支援とケアマネジャーとの関係についての考えはどうなっているか。
- 長坂委員 : 意思疎通支援については、課題認識は持っているので、今後引き続いて対応していく。  
障害者福祉制度と介護保険制度との関係については、介護保険のケアマネジャーからの協力依頼によって動くことも多いと思っている。
- 朝比奈委員 : 日中活動系事業所が持つ相談機能の低下が、相談支援事業所やえくるの業務に負担をかけているのではないかという意見もあるが。
- 森田委員 : 日中活動系の事業所である我々としても、どのような内容の相談がえくるにされているのか、お聞きしたいと思っているところである。
- 朝比奈委員 : 今後も意見交換をしていきたいと思う。
- 山崎会長 : 資料3-2、「措置入院退院者への支援」についての話は、今日、市川保健所の委員（小原委員）が欠席のため、次回に詳しく話をお聞きしたいと思っている。
- 森田委員 : えくるの相談数について。相談がきたときに、えくるが動き始めるまでの時間はどのくらいか。
- 長坂委員 : 毎週水曜日の全体会議において、新規ケースを洗い出し、担当を割り振り、動き出している。急を要するケースについては、即日その場から動くこともあるが、それ以外については、現状、水曜日の午前中には割り振って動き出している。

#### 【議事（5）地域生活支援拠点等について】

- 山崎会長 : 事務局から説明をお願いします。
- 障がい者支援課（石田主査） : 資料4-1、4-2に基づき説明。資料4-1の中央にある楢円が地域生活支援拠点の範囲と考えている。  
また、地域生活支援拠点等の整備に当たり、事業所向けの説明会を予定している。来年1月22日午後1時から、市川市急病診療・ふれあいセンター2階集会室にて行う予定。関係する事業所等を対象に、今後、開催案内を通知する予定。
- 山崎会長 : 質問はあるか。
- 木下委員 : 今日の会議時間が終了予定時間を超えていることから西口委員が早退されたので、西口委員からのご意見を代わりに申し上げる。  
地域生活支援拠点等の利用者の受入れ情報の共有化を図ってほしい、インターネットなどで見える化してほしい、とのことである。
- 障がい者支援課（石田主査） : この事業については、前提として、日常利用している施設での受入れが難しい場合を想定しており、コーディネーターが調整をするが、情報は

- コーディネーターにおいて集約する予定で、インターネット等での見える化までは考えていない。
- 朝比奈委員 : 自分の直感的に、この事業では、コーディネーターは3人くらい必要となるのではないかと感じる。コーディネーターはどの業務に優先的にあてさせるのか。つまり、コーディネーターを孤立させないことが重要と考えている。
- 障がい者支援課 : コーディネーターは常勤1人工分と考えている。今後、委託先の法人との調整で具体的にしていきたい。  
(石田主査)
- 植野委員 : この事業の「緊急」というのは、24時間体制なのか。
- 障がい者支援課 : 現段階では、24時間での対応を想定しているが、委託先の法人との調整の中で変更になることはあり得る。  
(石田主査)

**【議事（6）人材確保に向けた自立支援協議会の取組について】**

- 山崎会長 : 事務局から説明をお願いします。
- 障がい者支援課 : 前回の部会において、このことをテーマに含め、検討したが、少なくとも今年度は、プロジェクトチームの設置等はせず、幹事会において議論の積上げを行っていく予定である。  
(石田主査)

**【議事（7）閉会】**

- 山崎会長 : 以上で、本日予定されていた議題については、全て終了しました。事務局からは何かございますか。
- 障がい者支援課 : 長時間に渡り、ご協議いただきありがとうございました。なお、次回の協議会につきましては、11月18日（月）の午後1時からの予定となっております。本日お手元の封筒に開催通知を入れて配布しておりますので、どうぞよろしくお願いたします。事務局からは以上です。  
(野口主幹)
- 山崎会長 : それではこれで、令和元年度第2回自立支援協議会を閉会します。ありがとうございました。

**【閉会 15時35分】**